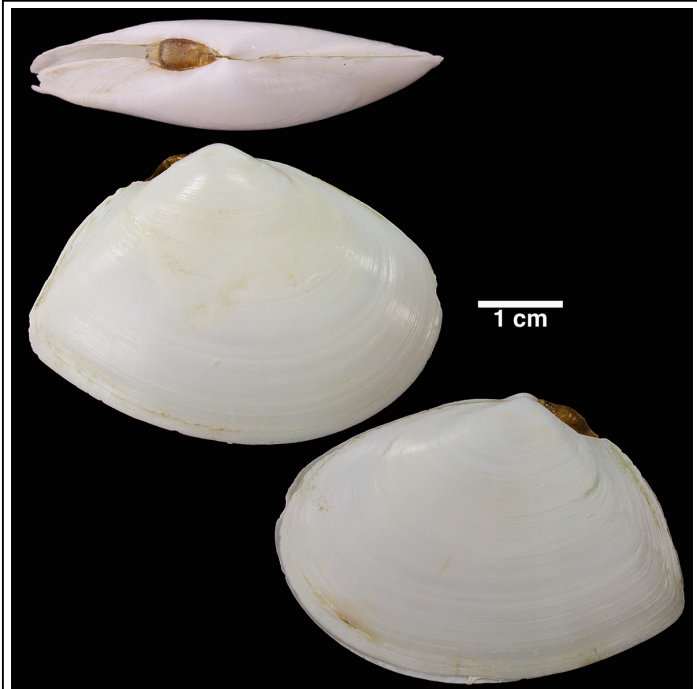


サギガイ *Rexithaerus sector* (Ôyama)

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種もかつては知多半島伊勢湾側、渥美半島外海側で多くの死殻が打ち上げられていたが、1990年前後からその個体数が激減している。1999年から3回(30地点以上)にわたり知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部をドレッジにより調査したが、生貝は採集されず、少数の死殻が採集されたにすぎない(木村, 2000; 木村, 未発表資料)。絶滅の可能性が高い種であると評価された。



南知多町内海沖(ドレッジ水深 2-5 m), 2015年9月22日,  
木村昭一採集

【形態】

殻長約 50 mm で、殻は卵形で膨らみは弱く扁平。殻質はやや薄く、白色で殻表には光沢がある。後背縁は張り出して左にねじれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少している。現在、合弁の死殻が採集される海域も知多半島南部(伊勢湾側)の一部に限られ、危機的生息状況である。渥美半島外洋側では底引き網や打ち上げられて死殻が採集されるので、外洋側に生息域が存在する可能性がある。

【世界及び国内の分布】

日本、サハリン、朝鮮半島、中国大陸、国内では北海道～九州まで分布する(木村・福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

木村昭一・福田 宏, 2012. サギガイ, p. 123.in : 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)